

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	40	実施計画番号	105
事務事業名	適切な森林整備を推進するための交付金等の活用		
個別事業名	森林整備地域活動支援交付金	事業開始年度	平成14年度
担当課名	畜産農地課	事務の種類	自治事務
根拠法令等	森林・林業基本法第12条第2項	関連事務事業	
背景や経緯等	林業採算性の悪化による林業生産活動の停滞や、森林所有者の高齢化、不在村化等を背景として、森林所有者の森林施業意欲が減退しており、適時適切な森林施業が十分に行われない森林が発生するなど、森林の有する多面的機能の発揮に支障をきたしかねない事態が生じているため。		
事務事業の目的	森林の有する多面的機能が十分に発揮されるよう、作業路網や森林の保護に関する事項も含む計画の作成を促進する「森林経営計画作成促進」、森林施業の集約化及び森林施業の実施の前提となる境界の確認等を行う「施業集約化の促進」、並びに既存の作業道等の作業路網を改良して丈夫で簡易な作業道に転換する「作業路網の改良活動等」の地域における活動の確保を図ることとする		
実施状況	国の制度を活用して3団体が作業路の刈払い、補修、境界の確認等を行った。総事業費は7,233千円で市ではうち966千円を支援し、森林整備の推進を図った。		

【人件費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	7	9	5
	人件費(千円)	252	324	180
正職員以外	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)	0	0	0

【事業費の推移】

	22年度実績	23年度実績	24年度計画
事業費合計(千円)	8,865	7,233	920
うち一般財源	966	966	230
うち国県支出金	7,899	6,267	690
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①	作業路刈払い				
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	
		km	5	2	0	
	活動指標名②	作業路補修				
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	
		km	2	2	0	
成果指標	成果指標名①	作業路刈払い				
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
		km	目標値	20	20	20
			実績値	5	7	
			達成度(%)	24%	35%	
	成果指標名②	作業路補修				
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
		km	目標値	4	4	4
	実績値		2	4		
	達成度(%)		43%	100%		

十和田市事務事業評価シート

整理No	40
計画No	105

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		森林の有する多面的機能を発揮させていくため十分に必要である。
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		意欲がある森林所有者や森林経営の委任を受けた団体などが、交付金を利用し林業採算性や生産活動の向上を図っており、有効である。
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		当事業は森林整備地域活動支援交付要綱に基づき、効率的に行っている。
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		意欲的な林業業者が取組んでおり、支出対象としての受益の偏りはなく、適正である。
			現在の適性	20 / 20	改善の余地 0 / 20	

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性 ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由
林業の振興のため、作業路刈払い・補修、境界の確認等を適切な森林整備に取り組んでいく。
今後の具体的な取組み方策と狙う効果
適切な森林整備を推進するため「森林整備地域活動支援交付金制度」を活用し、森林整備に不可欠な地域活動を支援し林業生産活動の効率化を図る。